

委託事業実施内容報告書

2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：公益財団法人吹田市国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	吹田版日本語交流活動の輪を地域に広げよう！ ～会話も漢字も交流も！～
事業の目的	これまでの事業実践を生かして日本語交流活動「にこにこ」の普及に努め、多文化共生の輪を地域に広げていくこと。 一定の日本語能力と多様な文化をもつ外国人人材を育成し、自信をもって社会参加へ導くこと。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	吹田市内の5つの大学に在籍する留学生やその家族、また外国人労働者やその家族等、市内に在住する外国人は過去3年で約20%増加(2018年7月現在5,242人)しており、それに伴い地域における日本語学習のニーズも高まり、多様化している。当協会の日本語教室でも学習希望者が多く、ここ数年待機状態が続いている。 初期日本語教育や交流を目的とした教室はあるが、地域に根ざして生活していくためには仕事や子育てする上で日常会話以上の能力や読み書きの能力が不可欠となるが、それに対応できる体制が不十分である。また、日本語教室において外国人は「支援される人」であり、ある程度日本語を習得して支援を必要としなくなった外国人は日本語教室から去ると同時に社会参加の機会を失い、その能力を発揮できずにいるケースが度々見受けられる。 入管法改正やオリンピック、万博開催に伴い、今後さらなる外国人増加が見込まれる中、当協会が地域日本語教育の拠点となりモデル事業として新たな事業に取り組み、持続可能な実施体制を整えることが求められている。
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	
事業内容の概要	1. 2014年度文化庁事業で開設した「にこにこ日本語」は、地域で暮らす外国人と日本人が日本語交流活動を通して互いの理解を深め、より豊かな関係を築いていくことを目指して活動を続けている。本事業では、この活動の趣旨を理解する支援者を養成し、市内及び近隣地域の各教室に普及に努めた。【人材育成】 2. 外国人当事者が自らの学習経験や日本での生活経験を生かして、後輩外国人の日本語及び生活サポートができるよう育成し、実践できる場を立ち上げた。日本語学習ができる居場所となり、地域で活躍できる外国人人材を育成することに努めた。【日本語教育の実施】【人材育成】 3. 日本で生活する外国人にとって、子育てや仕事をする上で、会話のみならず読み書きの力は不可欠となる。地域に根ざし、豊かに暮らしていけることを目指して「生活の漢字」教室を開設した。そのための支援者育成も実施した。【日本語教育の実施】【人材育成】
事業の実施期間	令和元年5月～令和2年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	西口 光一	大阪大学国際教育交流センター 教授
2	大谷 晋也	大阪大学国際教育交流センター 准教授
3	嶋津 百代	関西大学外国語学部 准教授
4	御子神 慶子	「生活の漢字」をかんがえる会 日本語講師
5	澤田 幸子	おおぞら日本語サポート 日本語講師
6	榎原 智子	(公財)吹田市国際交流協会 日本語講師
7	申 ヒョンジ	外国人市民・元SIFA学習者
8	林 詩	(公財)吹田市国際交流協会 主査



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和元年6月3日(月) 15:00～17:30	2.5時間	吹田市国際交流協会	西口光一、御子神慶子、澤田幸子、榎原智子、申ヒョンジ、林詩	1.本事業の概要説明 2.すべての取組について、内容・実施方法の検討
2	令和元年11月6日(水) 15:00～16:30	1.5時間	吹田市国際交流協会	御子神慶子、澤田幸子、榎原智子、申ヒョンジ、林詩	1.各事業の中間報告 2.課題検討 3.日本語交流活動宣言について提案
3	令和2年3月11日(水) 15:00～17:00	2時間	吹田市国際交流協会	西口光一、大谷晋也、御子神慶子、澤田幸子、榎原智子、申ヒョンジ、林詩	1.各事業の報告 2.課題検討 3.日本語交流活動宣言最終確認 4.次年度以降の目標

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	吹田市：市内各所における広報への協力 吹田市日本語教室ネットワーク連絡会(8団体)：地域の課題・情報共有、「にこにこ」普及活動、外国人人材、学習者、支援者募集 大阪府内の国際交流協会：外国人人材、学習者、支援者募集、「にこにこ」普及活動 「生活の漢字」をかんがえる会：「生活の漢字」支援者養成、教室実施への全面的協力
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	日本語教育の実施 ①日本語わいわい：本事業で養成した外国人の日本語支援者と運営をサポートする日本語母語の支援者が中心となり実施した。教室コーディネーターを2名配置した。 ②生活の漢字：本事業で養成した日本語支援者が中心となり実施した。養成講座講師が適宜助言を行った。 人材養成の実施 ①日本語わいわい支援者養成講座：澤田講師・榎原講師が中心となって実施した。 ②「にこにこ」支援者ブラッシュアップ講座及び出前講座：澤田講師および「にこにこ」教材執筆者が中心となって実施した。 ③「生活の漢字」支援者養成講座：御子神講師及び「生活の漢字」をかんがえる会メンバーが中心となって実施した。 運営委員はすべての事業の検討・助言を行った。すべての取組のコーディネートは林が行った。
----------	--

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称：外国人のための生活の漢字教室】										
目的・目標	生活に必要な読み書きを習得して、より豊かな暮らしにつなげること。これらの教室活動を足掛かりとして、地域で活躍できる外国人を育成すること。									
内容の詳細	今まで文字学習に特化した取り組みは行っていなかったが、日本で生活する外国人にとって、子育てや仕事をする上で、会話のみならず読み書きの力は不可欠となる。地域に根ざし、豊かに暮らしていけることを目指して「生活の漢字」を習得できる教室を実施した。本事業で研修を受講した支援者が中心となり教室運営を行った。養成講座講師は適宜助言を行った。									
実施期間	令和元年9月14日～令和2年3月14日 (※10月12日は台風のため中止、2月29日～3月14日はコロナウィルスの感染拡大防止のため中止)				授業時間・コマ数	1回 1.5時間 × 24回 = 36時間 (※うち、1.5時間 × 4回 = 6時間 中止)				
対象者	吹田市及び近隣在住の日本語学習希望者				参加者	総数 394人 (受講者 198人、指導者・支援者等 196人)				
カリキュラム案活用	カリキュラム案等を参考に作成された教材「生活の漢字」を活用した日本語教育を実施した。									
使用した教材・リソース	「生活の漢字」教材(ダイバーシティ研究所が本事業にて作成した教材)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	3	3	1	6			3			1
	イギリス(1人)、ドイツ(1人)、バングラデシュ(1人)、南アフリカ(1人)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和元年9月14日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	16	授業概要と同じ	1班:教材「はじめましょう」 2班:自己紹介、教材「はじめましょう」 3班:教材「はじめましょう」		支援者12名		
2	令和元年9月21日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	15	授業概要と同じ	1班:教材「カレンダー」 2班:教材「カレンダー」 3班:教材「駅①」		支援者13名		
3	令和元年9月28日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	13	授業概要と同じ	1班:教材「スーパー①」 2班:教材「住所」 3班:教材「スーパー①」		支援者8名		
4	令和元年10月5日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	13	授業概要と同じ	1班:教材「ゴミ収集」 2班:教材「スーパー」 3班:カレンダーを使って1月～5月までの行事の説明		支援者14名		
5	令和元年10月12日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	-	授業概要と同じ	台風のため休講		-		
6	令和元年10月19日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	13	授業概要と同じ	1班:教材「学校①」 2班:教材「台風」 3班:教材「スーパー②」		支援者10名		
7	令和元年10月26日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	11	授業概要と同じ	1班:教材「病院①」、学習した漢字の復習 2班:教材「銀行①③」、漢字カード作成 3班:教材「電気製品」		支援者10名		
8	令和元年11月2日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	12	授業概要と同じ	1班:教材「スーパー②」 2班:教材「公園」、漢字カード作成と復習 3班:教材「公園」		支援者11名		
9	令和元年11月9日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	12	授業概要と同じ	1班:教材「駅①」 2班:教材「薬」、漢字カード作成 3班:教材「ごみ収集」		支援者7名		
10	令和元年11月16日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	9	授業概要と同じ	1班:教材「公園」 2班:教材「トイレ」、漢字カード作成 3班:教材「住所」		支援者11名		
11	令和元年11月30日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	8	授業概要と同じ	1班:教材「郵便受けに入っているもの」 2班:教材「病院①②」、漢字カード作成 3班:教材「銀行①②」		支援者12名		
12	令和元年12月7日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	8	授業概要と同じ	1班:教材「薬」 2班:教材「郵便受けに入っているもの」、漢字カード作成と復習		支援者11名		
13	令和元年12月14日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	13	授業概要と同じ	1班:書道、これまでの振り返り 2班:教材「料理①②」 3班:教材「病院」		支援者11名		
14	令和元年12月21日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	8	授業概要と同じ	1班:教材「洗剤」、学習した漢字の復習 2班:教材「年賀状」 3班:教材「病院②」		支援者8名		
15	令和2年1月11日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	7	授業概要と同じ	1班:書初め、教材「料理①」と故郷の料理紹介 2班:教材「ごみ収集」 3班:教材「市役所」		支援者9名		

16	令和2年1月18日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	8	授業概要と同じ	1班:教材「電気製品」 2班:教材「地震」 3班:教材「葉」	支援者10名	
17	令和2年1月25日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	6	授業概要と同じ	1班:教材「地震」、地震の体験談 2班:教材「洗剤」 3班:なし	支援者9名	
18	令和2年2月1日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	8	授業概要と同じ	1班:教材「銀行①」、漢字書き順 2班:教材「市役所」、漢字カード作成 3班:なし	支援者10名	
19	令和2年2月8日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	7	授業概要と同じ	1班:教材「トイレ」 2班:教材「電気製品」 3班:なし	支援者7名	
20	令和2年2月15日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	6	授業概要と同じ	1班:教材「銀行②」 2班:教材「入国管理局」 3班:なし	支援者8名	
21	令和2年2月22日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	5	授業概要と同じ	1班:教材「料理②」、レシピの読み方 2班:教材「仕事②」、漢字カード作成 3班:なし	支援者5名	
22	令和2年2月29日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	-	-	コロナウイルスの感染拡大防止のため中止	-	
23	令和2年3月7日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	-	-	コロナウイルスの感染拡大防止のため中止	-	
24	令和2年3月14日(土) 13:30～15:00	1.5	吹田市国際交流協会	-	-	コロナウイルスの感染拡大防止のため中止	-	

(1) 特徴的な活動風景 (2～3回分)

○取組事例①

【第13回 令和元年12月14日】

レベル別に3班に分かれて活動しており、その中の1つの班の取組。

支援者が企画・準備をして書道体験をした。学習者の好きな漢字を選んで書いた。大変好評だったため、1月11日にも書初め体験をした。

○取組事例②

【第7回～ 令和元年10月26日～】

レベル別に3班に分かれて活動しており、その中の1つの班の取組。

学習した漢字でカード作成。学習者がカードに漢字を記入。毎回の活動時に作成して、回を重ねるごとに蓄積されていった。学習者自身が作ったカードを使用して、楽しみながら復習することができた。



(2) 目標の達成状況・成果

2～3月に学習者アンケートを予定していたが、コロナウイルス感染拡大防止のため事業中止となり4件しか回収できなかった。アンケートに回答した4名すべて、教室参加によって日本語が上達し、満足しているという結果であった。

以前から漢字学習の要望はあり、学習者は実人数21名と定員より多く集まった。しかし途中から学習者が減少傾向にあり、新規参加者も増えなかった。土曜日午後という開催日時にも要因があると思われる。会場の都合でやむを得ずその時間としたが、子育てする上で必要なので漢字を学びたいと要望していた外国人ママが参加しにくい時間帯となってしまった。

(3) 今後の改善点について

レベル別3班のうち、漢字圏学習者や漢字上級者の班を設けていた。「生活の漢字」の範囲を超えたより高度な学習内容を期待され、支援者もそれに応えようと自作教材を用意したり対応に苦慮していた。支援者と協議の結果、そのような学習者を排除はしないが特別な対応はせず、非漢字圏学習者と同じ班で学習してもらうこととした。漢字圏学習者の対応を通して、「身の回りの漢字を知ること生活の質が向上し、地域に根ざしてより豊かに暮らしていけるように」という教室の趣旨を支援者で改めて共有できる機会となった。

学習者が減少傾向にあったが、今後は学習者の増減に柔軟に対応するために、2班編成で実施することとする。

日本語教育の実施【活動の名称：日本語わいわい】										
目的・目標	外国人当事者同士による学び合いの場を開設し、先輩から後輩への経験の継承につなげる体制を築くこと。教室活動を足掛かりとして、地域で活躍できる外国人を育成すること。									
内容の詳細	外国人当事者が自らの学習経験や日本での生活経験を生かして、後輩外国人の日本語及び生活サポートを行う等の学習活動を行った。日本語学習の場ではあるが、先輩外国人にとっては活躍できる場を得ることによるエンパワメントにつながり、後輩外国人にとっては当事者同士ならではの不安や悩みも安心して相談できる居場所となることを目指した。教室コーディネーターを2名配置し、本事業で研修を受講した支援者によって教室運営を行った。									
実施期間	令和元年11月1日～令和2年3月13日 (※3月6日・13日はコロナウイルスの感染拡大防止のため中止)				授業時間・コマ数		1回 1.5時間 × 18回 = 27時間 (※うち、1.5時間 × 2回 = 3時間 中止)			
対象者	吹田市及び近隣在住の日本語学習希望者				参加者		総数 246人 (受講者 102人、指導者・支援者等 144人)			
カリキュラム案活用	2014年度にカリキュラム案等を参考に作成した教材「にこにこ」等を活用した日本語教育を実施した。 2014年文化庁事業で作成した「日本語ノート」を日本語能力評価を参考により効果的な学習記録となるよう検討した。									
使用した教材・リソース	市報、ハザードマップ、新聞切り抜き、支援者自作プリント、フリーペーパー等									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	11			1		1				
	イギリス(1人)、イラク(1人)、ドイツ(1人)、台湾(1人)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和元年11月1日(金) 10:00～11:30	1.5	市民公益活動センター	9	授業概要と同じ	1班:自己紹介、日本での生活、国の医療サービス 2班:教材を使用して自己紹介 3班:自己紹介、趣味、食べ物		支援者13名		
2	令和元年11月8日(金) 10:00～11:30	1.5	市民公益活動センター	9	授業概要と同じ	1班:保育園と幼稚園の違い、敬語、携帯のアプリ 2班:趣味、季節、食べ物 3班:季節、料理、趣味		支援者12名		
3	令和元年11月15日(金) 10:00～11:30	1.5	市民公益活動センター	5	授業概要と同じ	1班:自己紹介、市報の紹介、図書館 2班:クリスマスの過ごし方、テレビ、贈り物の風習 3班:料理、趣味		支援者12名		
4	令和元年11月22日(金) 10:00～11:30	1.5	市民公益活動センター	9	授業概要と同じ	1班:出身国と日本の教育の違い 2班:市報、施設の予約、休日診療所 3班:暖房器具、離乳食		支援者8名		
5	令和元年11月29日(金) 10:00～11:30	1.5	市民公益活動センター	8	授業概要と同じ	1班:学習者の故郷の話、大学生活 2班:子育ての違い、料理 3班:余暇、運動、ショッピング		支援者8名		
6	令和元年12月6日(金) 10:00～11:30	1.5	南千里地区公民館	6	授業概要と同じ	1班:出身国と日本の違い、年末年始の過ごし方 2班:困っていること、オノマトペ 3班:いろいろな質問に答える		支援者10名		
7	令和元年12月13日(金) 10:00～11:30	1.5	市民公益活動センター	8	授業概要と同じ	1班:国際結婚の難しさ、日本人と中国人の違い、子育て 2班:質問くじ(○○できますか。好きな○○。) 3班:お正月		支援者7名		
8	令和元年12月20日(金) 10:00～11:30	1.5	市民公益活動センター	9	授業概要と同じ	1班:ペットを飼うこと、方言と標準語、いじめ、子育て、年末年始の計画 2班:質問くじ 3班:日本のマンガ、年賀状		支援者7名		
9	令和2年1月10日(金) 10:00～11:30	1.5	南千里地区公民館	9	授業概要と同じ	1班:漢字パズル、部首クイズ、しりとり 2班:質問くじ、お正月の過ごし方 3班:お正月遊び		支援者10名		
10	令和2年1月17日(金) 10:00～11:30	1.5	市民公益活動センター +吹田市国際交流協会	9	授業概要と同じ	1班:自己紹介カードとゲーム 2班:旧正月の過ごし方、故郷のおいしい物 3班:質問くじ、料理		支援者10名		
11	令和2年1月24日(金) 10:00～11:30	1.5	市民公益活動センター	4	授業概要と同じ	1班:困った経験、チラシを使った学習 2班:なし 3班:旅行、タイについて		支援者5名		
12	令和2年1月31日(金) 10:00～11:30	1.5	市民公益活動センター +吹田市国際交流協会	6	授業概要と同じ	1班:料理、買い物、チラシ 2班:回文、間接詞、敬語、漢字クイズ 3班:数の数え方		支援者7名		
13	令和2年2月7日(金) 10:00～11:30	1.5	市民公益活動センター +吹田市国際交流協会	2	授業概要と同じ	1班:接続後の使い分け、ら抜き言葉 2班:回文、日本語にあって中国語・ベトナム語にないもの 3班:なし		支援者9名		
14	令和2年2月14日(金) 10:00～11:30	1.5	市民公益活動センター +吹田市国際交流協会	5	授業概要と同じ	1班:新聞記事を読む(新型コロナウイルスについて) 2班:日本の文化、着物 3班:質問ブック		支援者12名		
15	令和2年2月21日(金) 10:00～11:30	1.5	市民公益活動センター	3	授業概要と同じ	1班:保育園、働くことへの不安 2班:教育、弁当 3班:結婚式、仕事		支援者8名		
16	令和2年2月28日(金) 10:00～11:30	1.5	市民公益活動センター	1	授業概要と同じ	一時保育の情報、新型コロナウイルスについて		支援者6名		

17	令和2年3月6日(金) 10:00~11:30	1.5	市民公益活動 センター	-		コロナウイルスの感染拡大防止のため中止	-	
18	令和2年3月13日(金) 10:00~11:30	1.5	市民公益活動 センター	-		コロナウイルスの感染拡大防止のため中止	-	

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第3回 令和元年11月15日 他】

活動日が平日午前中ということもあり子連れママの参加者が多く、子育てに関する話題で話す日が多い。子育て中の外国人支援者が持参した離乳食をみんなで味見をしたり、赤ちゃん言葉の紹介をしたり、保育園と幼稚園の違い、子育て文化の違いなどについて話したりした。

○取組事例②

【第4回 令和元年11月22日 他】

日本語レベルの高いグループでは、日本の教育事情(塾、いじめなど)、それぞれの国のタブーな話題、国際結婚の難しさ、日本人の気質、新型コロナウイルスなどのテーマについてじっくりと意見を出し合った。



(2) 目標の達成状況・成果

2~3月に学習者アンケートを予定していただが、コロナウィルス感染拡大防止のため事業中止となり4件しか回収できなかった。アンケートに回答した4名すべて、教室参加によって日本語が上達し、満足しているという結果であった。

外国人支援者が10名も応募して活動してくれたことがまずは大きな成果である。外国人支援者の中にはまだまだ日本語が十分とは言えず、中には学習者の方が流暢なケースもあったが、日本語レベルだけが指標ではなく、助けになりたいという気持ちや日本での生活経験をいかして、当事者である彼らにしかできない支援につながった。日本人支援者にとっても学びは大きく、話すことばも活動記録も「やさしい日本語」を心がけることができたし、学習者の欠席で支援者が余った日も、外国人支援者と日本人支援者で学び合いをしていた。

この教室は日本語学習の場ではあるが、外国人の社会参加促進や当事者同士が不安や悩みを共感し合い、安心できる居場所となることを目的として実施しており、学習者も支援者も継続して参加していたという実績からみて、一定の効果があつたと評価できる。

(3) 今後の改善点について

当初はトピックシラバスの教材を使用して活動することを想定していたが、支援者・学習者双方から、形式にとらわれず自由な話題で活動をしたいという希望があり、学習者の関心事やニュースなどを題材に自由に活動した。楽しい雰囲気の中で活動しており、学習者も継続して参加していたが、漫然としたおしゃべりで終わらせず学びにつなげるために、毎回「終わりの会」を実施して全体での活動ふりかえりを行った。また、4月からは2014年文化庁事業で作成した「日本語ノート」を活用して「書く活動」を取り入れ、学んだことを意識できるような取組を試みることにした。

次年度から外国人支援者が移動に伴い9名中6名退会することとなった。継続的なボランティア確保が課題である。

想定以上に子連れ参加者が多く、保育スペースと保育人員を設けていないため、安全に活動できるよう配置等を検討することが求められる。

今年度、教室活動の枠組みはできた。今後は、教室内の対話活動のみに限らず、自由に活動範囲を広げていきたいと考えている。教室コーディネーターと連携を図り、外国人支援者の講話を聴く機会や新たな提案が生まれるような教室づくりを目指したい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称： 外国人のための生活の漢字教室 支援者養成講座】										
目的・目標	地域で共に暮らす生活者である外国人への理解をもった日本語支援人材を育成すること。									
内容の詳細	日本で生活する外国人にとって、子育てや仕事をする上で、会話のみならず読み書きの力は不可欠となる。地域に根ざし、豊かに暮らしていけることを目指して「生活の漢字」を指導できる支援者育成を実施した。									
実施期間	令和元年7月20日～令和2年3月14日 (※3月14日はコロナウイルスの感染拡大防止のため中止)				授業時間・コマ数		1回 1.5時間 × 1回 = 1.5時間 1回 2時間 × 8回 = 16時間 1回 2.5時間 × 1回 = 2.5時間 (※うち、1.5時間×1回＝1.5時間 中止)			
対象者	漢字学習支援に関心のある人				参加者		総数 171人 (受講者 154人、指導者・支援者等 17人)			
カリキュラム案活用	カリキュラム案等を参考に作成された教材「生活の漢字」を活用した研修を実施した。また、「日本語教育人材の養成・研修のあり方について」等を参考に研修内容を検討した。									
使用した教材・リソース	「生活の漢字」教材(ダイバーシティ研究所が本事業にて作成した教材)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
		2								22
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和元年7月20日(土) 13:00～15:00	2	千里花とみどりの情報センター 講習室	21	「生活の漢字」って？～どの漢字から始めますか？～年生の漢字から？	生活者としての外国人が地域の日本語教室で漢字学習をする必要性について。街中や身の周りで見かける「生活の漢字」について。		川崎 百世 「生活の漢字」をかんがえる会	補助者 小野木	
2	令和元年7月27日(土) 13:00～15:00	2	千里花とみどりの情報センター 講習室	19	教材を見てみよう～何を使って、どうやって活動しますか？	駅や病院など実際の生活の場面で見える漢字のある写真やイラストを教材として準備。教材を使い学習を進める上で学習者と支援者のコミュニケーションの必要性について学ぶ。		川崎 百世 「生活の漢字」をかんがえる会		
3	令和元年8月3日(土) 13:00～15:00	2	市民公益活動センター	18	活動のヒント～身近な漢字を探してみよう	支援者が教室でグループ活動するためのルールや留意点について。グループで教材の素材を考え、学習場面を想定してアイデアを出し合う。		掛橋 智佳子 「生活の漢字」をかんがえる会		
4	令和元年8月24日(土) 13:00～15:00	2	千里花とみどりの情報センター 講習室	20	活動を組み立てよう～テーマを決めて、手順を考えます	これまでの講座内容を振り返り、学習者が漢字に興味を持ち、学習を続けられる様な活動の組立て方を考える。		御子神 慶子 「生活の漢字」をかんがえる会	補助者 掛橋・小野木	
5	令和元年8月31日(土) 13:00～15:00	2	市民公益活動センター	20	さあ、やってみよう！～前回組み立てた活動を実践します	グループでテーマを確認し、組立てた活動内容を実際に支援者役・学習者役・オブザーバー役に分かれて実践・その振り返り。		掛橋 智佳子 「生活の漢字」をかんがえる会	補助者 小野木	
6	令和元年9月7日(土) 13:00～15:00	2	市民公益活動センター	20	漢字教室の準備をしよう～次週からの活動の準備をします	前回の振り返り。活動班メンバー自己紹介。教室第1回目の準備		御子神 慶子 「生活の漢字」をかんがえる会	補助者 川島	
7	令和元年9月14日(土) 13:30～15:40 (10分休憩)	2	吹田市国際交流協会	12	活動のふりかえり	実際に教室活動を行って気付いたことや反省点をもとに、次回の学習内容を考えグループで共有する。		御子神 慶子 「生活の漢字」をかんがえる会	補助者 小野木	
8	令和元年9月21日(土) 13:30～15:40 (10分休憩)	2	吹田市国際交流協会	13	活動のふりかえり	実際に教室活動を行って気付いたことや反省点をもとに、次回の学習内容を考えグループで共有する。		御子神 慶子 「生活の漢字」をかんがえる会		
9	令和元年12月7日(土) 13:30～16:10 (10分休憩)	2.5	吹田市国際交流協会	11	中間研修	グループで今日及びこれまでの活動の振り返りを行い、全体で問題点等の共有をする。		御子神 慶子 「生活の漢字」をかんがえる会	補助者 掛橋・小野木	
10	令和2年3月14日(土) 15:15～16:45	-	吹田市国際交流協会	-	年度末研修	コロナウイルスの感染拡大防止のため中止		春貴 勇力 市民公益活動センター職員		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 令和元年8月3日】

第1回、第2回と教わった漢字学習のポイントを押さえた上で、グループに分かれて身近な漢字を探しに出かけ、その漢字の学び方を考えた。そのアイデアを模造紙に書いて各グループ発表した。あるグループは「消火器」、またあるグループは「受付」などの漢字を、イラストや図式化したり、カタカナに分解したりして、どうすれば学習者にわかりやすく興味をもってもらえるかを考えた。



○取組事例②

【第5回 令和元年8月31日】

第4回で選んだ教材を使用して活動を組み立て、グループ内で支援者役と学習者役とに分かれて模擬授業を行った。学習者の漢字レベルや生活環境が想像できないのでどこからどのように進めるか苦労していた。やさしい日本語で説明することが難しかったとの感想が多数あり、特に初めて日本語支援に関わる受講者は、漢字以前に外国人との日本語でのコミュニケーション経験がないので、話し方・伝え方がとても難しいようであった。支援者役と学習者役も交代してひと通り終えた後は、お互いにフィードバックを行った。講師に教わったことをいざ実践するとなると難しく、教室活動のイメージや期待も少し膨らんできたが、第5回終了時点ではまだ不安の方が大きいようであった。



(2) 目標の達成状況・成果

「生活の漢字をかかんぐる会」講師による漢字学習支援方法を全6回の事前研修で学んでいた。在住外国人の状況や地域日本語教室の意義についても講座の中では触れていたが、そこが不十分だったのか、受講者が「漢字指導ノウハウ」に固執する傾向があった。当協会は「体系立てて上手く教えること」を望んでいるわけではないが、特に初めの頃は漢字指導方法の教授を期待する受講者とのギャップが否めなかった。アンケートにおける研修への評価は、4段階評価で平均2.8と十分に満足が得られたとは言いがたい結果であった。ただ、事前研修の最終回には、翌週から実際に教室活動を行うグループに分かれて模擬授業を行い、グループリーダーを発表して学習者の申込み状況も伝えたことで、教室活動への具体的なイメージを持つことができ、グループ内の連帯感も生まれた。受講者24名中18名が支援者として登録につながった。

(3) 今後の改善点について

年度末研修では、活動する上で感じる課題や意見を出し合い、今後のボランティア間のより円滑なコミュニケーションについてグループで考える予定であったがコロナウィルスのため中止となった。定期ミーティングでは活発な意見交換ができる雰囲気はできていたので、今年度の活動をふり返ってさまざまな課題を整理して次年度につなげたかったが実施できなかったことが心残りである。次年度はグループリーダーも変わり、班編成も3班から2班へと変わるので、新体制で支援者同士のコミュニケーションがうまく図れるように取り組みたい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：日本語わいわい 支援者養成講座】

目的・目標	地域で共に暮らす生活者である外国人への理解をもった日本語支援人材を育成すること。また、地域で活躍できる外国人を育成すること。									
内容の詳細	外国人当事者が自らの学習経験や日本での生活経験を生かして、後輩外国人の日本語及び生活サポートを行う等、地域で活躍できる人材を育成した。									
実施期間	令和元年10月4日～令和元年10月25日				授業時間・コマ数		1回 2時間×3回＝6時間			
対象者	日本語支援に関心のある日本人及び外国人				参加者		総数 70人 (受講者 66人、指導者・支援者等 4人)			
カリキュラム案活用	2014年度にカリキュラム案を参考に作成した教材「にこにこ」等を活用した研修を実施した。また、「日本語教育人材の養成・研修のあり方について」等を参考に研修内容を検討した。外国人人材育成においては日本語能力評価を参考にした。									
使用した教材・リソース	「にこにこ」を使用。「おしゃべりのたね」「にほんごこれだけ」「にほんご宝船」等紹介。									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	2	4	1	2						15
	イラン(1人)									

養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和元年10月4日(金) 10:00～12:00	2	千里市民センター	20	ボランティア活動をするにあたって	吹田市の外国人。地域日本語教室の役割と意義。日本語ボランティアの心構え。「日本語わいわい」のコンセプト。どんな教室を作りたい？	榎原 智子 (SIFA日本語講師)	発表者 申 炫芝		
2	令和元年10月11日(金) 10:00～12:00	2	千里市民センター	21	外国人とのコミュニケーション～『やさしい日本語』を知る・使う～	日本語があまりわからない人とのコミュニケーション手段「やさしい日本語」のはじまり、意義、話し方話すときの留意点	澤田 幸子 (おおぞら日本語サポート)			
3	令和元年10月25日(金) 10:00～12:00	2	市民公益活動センター	25	教室運営のやり方と活動の具体的な進め方を考えよう	「やさしい日本語」の復習と課題のフィードバック「日本語わいわい」をうまく運営していくために大切にしたいことは何？活動で使える素材の紹介と進め方	澤田 幸子 (おおぞら日本語サポート)			

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 令和元年10月4日】

外国人当事者の思いを知ってもらおうと、元学習者であり、当教室のコーディネーターでもある外国人支援者に登壇して話していただいた。来日当初、日本語がわからない中で3人の子どもを出産・子育てをした経験や、地域日本語教室での支援が日本語習得だけでなく生活面でも支えになり、徐々に自信をつけて、自分のような外国人の力になりたいとボランティア活動を始めたという経験談を聞き、講座受講生からは心に響いたと感想が寄せられた。
最後には、どのような教室にしたいかグループで話し合い、教室のキャッチコピーを考えて発表した。



○取組事例②

【第3回 令和元年10月25日】

この日の後半は、「わたしはこんな人です」と書いた小さな紙を交換しながら自己紹介活動を行った。支援者同士が互いを知り、良い関係を築くことで、学習者にとっても安心できる教室につながる。「この仲間でこれから教室をつくっていくのだ」と翌週からの教室開始に向けて期待を膨らませ、講座を終えることができた。



(2) 目標の達成状況・成果

はじめて出会う人たちが全3回の講座を受講してゼロから教室を立ち上げる、ということで、講座では講師の話聞くだけでなく、できるだけお互いを知り合い、リラックスした温かい教室づくりにつながるような構成とした。外国人支援者もアンケートにおける研修への評価は、4段階評価で平均3.8と非常に高く、教室開設に向けて前向きな期待を感じられる結果であった。受講者25名中24名が支援者として登録につながった。

(3) 今後の改善点について

次年度から外国人支援者が引越し等の移動に伴い10名中7名退会することとなった。継続的な支援者確保が課題である。外国人と日本人の支援者がいっしょに教室運営をすることがこの教室の特徴であり、教室コーディネーターも外国人と日本人1名ずつ配置していたが、外国人が仕事の都合で辞退することとなった。学習者の状況や要望をよく理解できる外国人コーディネーターの存在は大きく、新たな担い手育成を図りたい。学習者として参加していた外国人を支援者として育成していくことにも積極的に取り組みたい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：「にこにこ日本語 支援者ブラッシュアップ講座」】										
目的・目標	地域で共に暮らす生活者である外国人への理解をもった日本語支援人材を育成すること。また、地域で活躍できる外国人を育成すること。									
内容の詳細	2014年度・2017年度に文化庁事業で作成した教材「にこにこ」「はじめてのにこにこ」は、地域で暮らす外国人と日本人が日本語交流活動を通して互いの理解を深め、より豊かな関係を築いていくことを目指して作成した。本事業では、「にこにこ」を使用して活動している支援者を対象に、これまでの活動をより深めるためにブラッシュアップ講座を実施した。									
実施期間	令和元年11月2日～令和元年11月10日				授業時間・コマ数		1回 2時間 × 1回 = 2時間 1回 2.5時間 × 1回 = 2.5時間			
対象者	「にこにこ」を使用して活動している日本語支援者				参加者		総数 31人 (受講者 29人、指導者・支援者等 2人)			
カリキュラム案活用	2014年度・2017年度にカリキュラム案等を参考に作成した教材「にこにこ」「はじめてのにこにこ」を活用した研修を実施した。また、「日本語教育人材の養成・研修のあり方について」等を参考に研修内容を検討した。指導力評価を参考に作成した「セルフチェックシート」を活用した。									
使用した教材・リソース	「にこにこ」									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1	1								18
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和元年11月2日(土) 10:30～12:40 (10分休憩)	2	吹田市国際交流協会	15	講師からの助言、意見交換ミーティング	事前に支援者にアンケートを取った。講師に活動のようすを見てもらい助言をもらう。支援者からの講師への質問や意見交換。		澤田 幸子 (おおぞら日本語サポート)		
2	令和元年11月10日 (日)10:00～12:30	2.5	吹田市国際交流協会	14	うまくいってる? 「にこにこ日本語」の活動	活動の振り返りと支援者のよりよい連携作りに向けて 「にこにこ」の原点を再確認 セルフチェックシートを活用した振り返り 支援者アンケートの結果 支援者同士のコミュニケーションの重要性		澤田 幸子 (おおぞら日本語サポート)		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1・2回 令和元年11月2・10日】
 事前に支援者アンケートを実施。教室登録者27名中19名回答。16名が楽しく活動している、3名がどちらともいえないと回答。学習者のレベル差・支援者同士のコミュニケーション・敬語や方言などことばのコントロール等についての質問があった。
 第1回は講師に活動のようすを見ていただき、活動後30分間のふり返りで気になった点について助言をもらった。
 第2回は「何のために、どのようにして活動するのか」を再確認し、2014年文化庁事業で作成したセルフチェックシートを活用してふり返りを行った。また、事前アンケートの質問に答えていただいた。その中で、学習者のレベル差に関する質問への助言が明快であった。地域の教室でレベル差はあって当たり前。支援者が思うほど学習者は気にしていない。支援者が「教えよう」と思うからレベル差が問題になるが、学習者はそんな中でも何かを習得しようとしている。配慮は必要だが、やめるのもあり、と割り切ることも大事。という講師のことばに、支援者も納得した様子であった。

(2) 目標の達成状況・成果

2014年文化庁委託事業として教室を開設してから5年経過。新しい支援者も加わり、方向性や進め方も統一性がなくなってきた。一度原点に立ち返って活動の目的を再確認し、より楽しく充実した活動につなげるためにブラッシュアップ研修を実施した。講師は2014年教室発足からの経緯や趣旨をよくご存知で、支援者からの質問にも的確に助言いただいた。教室登録者27名中、第1回は15名、第2回は14名と約半数の出席率であった。ある支援者が「ほかの支援者の進め方の違いに戸惑う。自分は別の方法の方がいいと思うが、どうすればいいか。」と質問し、講師は「私はこう思うけどどう? って聞いてみたらいいやん」と回答。単純なことだがそれが難しい。日頃、いろいろ思うところがあっても事務局を通して意見をしたり、問題提起をしたりと、支援者同士の関係は悪くないが、どこか遠慮し合っていて何でも話し合える関係ができていなかったことを再認識。教室活動はうまく進められているが、支援者間の円滑なコミュニケーションが今後も引き続き課題である。教室コーディネートを行う事務局スタッフにとっても支援者育成や教室づくりのヒントを得ることができた。

(3) 今後の改善点について

毎月の定例ミーティングでは、学習者情報の共有やイベントの企画など以外のことについて話す時間が十分でないが、今回のようにじっくりと活動に向き合い、それぞれの考えを話し合う機会は風通しのよい教室づくりをする上で大変有意義であると改めて感じた。半年に1度ぐらいは、じっくり話せる時間を持ちたい。今回、外部講師だからこそ言えて、支援者も素直に受け止められるということもあったが、事務局や支援者同士だと難しい面もある。外部講師に依頼するための予算確保にも努めたい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 【活動の名称：日本語交流活動教材「にこにこ」出前講座】

目的・目標	地域で共に暮らす生活者である外国人への理解をもった日本語支援人材を育成すること。また、地域で活躍できる外国人を育成すること。									
内容の詳細	2014年度・2017年度に文化庁事業で作成した教材「にこにこ」「はじめてのにこにこ」は、地域で暮らす外国人と日本人が日本語交流活動を通して互いの理解を深め、より豊かな関係を築いていくことを目指して作成した。本事業では、この活動の趣旨を理解する支援者を養成し、市内及び近隣地域の各教室への普及を目的として出前講座を行った。									
実施期間	令和元年10月17日～令和2年2月25日				授業時間・コマ数		1回 2時間 × 11回 = 22時間 1回 3時間 × 3回 = 9時間			
対象者	府内の日本語教室で活動している日本語支援者				参加者		総数 267人 (受講者 253人、指導者・支援者等 14人)			
カリキュラム案活用	2014年度・2017年度にカリキュラム案等を参考に作成した教材「にこにこ」「はじめてのにこにこ」を活用した研修を実施した。また、「日本語教育人材の養成・研修のあり方について」等を参考に研修内容を検討した。									
使用した教材・リソース	「にこにこ」「はじめてのにこにこ」									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1	1								251

養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和元年10月17日(木) 14:00～16:00	2	摂津市国際交流協会	17	「にこにこ」紹介	SIFA教室「にこにこ」の紹介 教材の紹介 実際に教材を使った活動体験	榎原智子			
2	令和元年11月9日(土) 13:30～15:30	2	市民交流センター(河内長野市)	14	「にこにこ」紹介	SIFA教室「にこにこ」の紹介 教材の紹介 実際に教材を使った活動体験	澤田幸子			
3	令和元年11月16日(土) 14:30～16:30	2	市民交流センター(河内長野市)	15	「はじめてのにこにこ」紹介	SIFA教室「にこにこ」の紹介 教材の紹介 実際に教材を使った活動体験	榎原智子			
4	令和元年11月24日(日) 13:30～15:30	2	八尾市曙川東地区集会所	11	「はじめてのにこにこ」紹介	SIFA教室「にこにこ」の紹介 教材の紹介 実際に教材を使った活動体験	榎原智子			
5	令和元年12月13日(金) 13:30～15:30	2	箕面市多文化交流センター	21	「はじめてのにこにこ」紹介	SIFA教室「にこにこ」の紹介 教材の紹介 実際に教材を使った活動体験	澤田幸子			
6	令和元年12月21日(土) 13:30～15:30	2	国際交流サロン(守口市)	13	「にこにこ」紹介	SIFA教室「にこにこ」の紹介 教材の紹介 実際に教材を使った活動体験	澤田幸子			
7	令和2年1月16日(木) 13:30～15:30	2	市民公益活動センター(吹田市)	17	「にこにこ」紹介	SIFA教室「にこにこ」の紹介 教材の紹介 実際に教材を使った活動体験	矢谷久美子			
8	令和2年1月16日(木) 13:00～16:00	3	池田市保健福祉総合センター	14	「にこにこ」、「はじめてのにこにこ」紹介	SIFA教室「にこにこ」の紹介 教材の紹介 実際に教材を使った活動体験	榎原智子			
9	令和2年1月18日(土) 13:30～15:30	2	国際交流サロン(守口市)	16	「はじめてのにこにこ」紹介	SIFA教室「にこにこ」の紹介 教材の紹介 実際に教材を使った活動体験	矢谷久美子			
10	令和2年1月30日(木) 13:30～15:30	2	市民公益活動センター(吹田市)	20	「はじめてのにこにこ」紹介	SIFA教室「にこにこ」の紹介 教材の紹介 実際に教材を使った活動体験	榎原智子			
11	令和2年2月1日(土) 13:～16:00	3	泉佐野地球交流協会	23	「にこにこ」、「はじめてのにこにこ」紹介	SIFA教室「にこにこ」の紹介 教材の紹介 実際に教材を使った活動体験	矢谷久美子			
12	令和2年2月7日(金) 13:30～15:30	2	貝塚市中央公民館	40	「はじめてのにこにこ」紹介	SIFA教室「にこにこ」の紹介 教材の紹介 実際に教材を使った活動体験	澤田幸子			
13	令和2年2月8日(土) 13:00～16:00	3	とんだばやし国際交流協会	12	「にこにこ」、「はじめてのにこにこ」紹介	SIFA教室「にこにこ」の紹介 教材の紹介 実際に教材を使った活動体験	榎原智子			
14	令和2年2月25日(火) 13:30～15:30	2	摂津市国際交流協会	20	「はじめてのにこにこ」紹介	SIFA教室「にこにこ」の紹介 教材の紹介 実際に教材を使った活動体験	澤田幸子			

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第7,10回 令和2年1月16日,1月30日】

吹田市内の教室で活動する支援者を対象に「にこにこ」と「はじめてのにこにこ」の紹介を行った。当協会を含む6つの教室から支援者が参加し、吹田のために作成した教材に興味深く耳を傾け、実践的に学ぶ機会が提供できた。また、市内のさまざまな教室の支援者が集まり、交流にもつながった。「はじめてのにこにこ」は入門学習者を対象としたマスターテキストアプローチ手法の教材で、受講者はこの手法で日本語が習得できるのか半信半疑であったが講師の実践経験を聞き、教材を使って活動体験をしてみても興味湧いてきた様子。担当している入門学習者との活動に苦慮しているの、教室に持ち帰って早速使ってみようとの感想もあった。



(2) 目標の達成状況・成果

府内各市の国際交流協会や国際課にチラシ送付により周知した。事業計画では5回実施の予定であったが、結果は府内10市、計14回実施となった。253人も支援者に紹介することができ、また教材を100冊以上頒布し、大きな成果を上げることができた。アンケート結果は回答数220件のうち、「ぜひ使いたい」および「機会があれば使ってみよう」202件、「使ったことがある」5件と評価は高かった。教材執筆者が講師として各地で紹介。講師からも「このアプローチが点から面へと広がったと実感する」「今後ますます学習者が増加する中、1対1の学習形態を見直し、学習者のレベル差解消のヒントを提案できた」との評価をいただいた。各地を訪問する中で、入門学習者の対応や学習希望者の急激な増加に苦慮されている状況など地域が抱える課題を知り、また、吹田の教材や活動実践についてさまざまな意見をいただくこともできて、客観的な視点で吹田の取組をふり返る機会となった。地域の教室では文法積み上げ教材を使用しているところが依然として多いが、日本語の専門家ではない市民にこそできることは、外国人と日本語で交流することを通してつながりを作り、日本語を伸ばしてもらうこと＝日本語交流活動ではないかと当協会は考え活動している。教材の紹介を通して、吹田の「日本語交流活動」を提唱し、日本語教育の需要もますます高まる中で、地域日本語教室として何を目的とするか、市民ボランティアとして何ができるか、を改めて考えるきっかけとしてももらうことも狙いであった。

(3) 今後の改善点について

今回、文化庁事業を活用することで無料で各地域に紹介する講座を実施することができた。教材の普及は作成当時の願いでもあり、当協会としてもこのような機会をいただけて大変有難かった。今回訪問した地域では、自力で文化庁から事業を受託できるだけの余力がなく、また、独自で支援者研修を実施する予算も持ち合わせていない団体が多く、わたしたちの出前講座が重宝された。事務局の体制が安定している団体が事業を受託して、広域で享受できるように今後も取り組んでもらいたいとの声が多数寄せられた。大阪府内はともかく、少なくとも吹田市内では地域日本語教育の中核拠点として、当協会がその役割を担うべきであろうとの認識を新たにしたい。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：実施しない】

目的・目標			
内容の詳細			
実施期間		作成教材の 想定授業時間	
対象者		教材の ページ数	
カリキュラム案活用			
事業終了後の教材 活用			
成果物のリンク先			

※【日本語教育の実施】欄に記載のとおり、過年度にカリキュラム案を活用して作成した教材を使用して実施したため、本年度は教材作成を実施しなかった。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

これまでの事業実践を生かして日本語交流活動「にこにこ」の普及に努め、多文化共生の輪を地域に広げていくこと。
一定の日本語能力と多様な文化をもつ外国人人材を育成し、自信をもって社会参加へ導くこと。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

当協会が吹田市における日本語教育の拠点として、日本語の専門家ではない市民ボランティアによる活動として持続可能であると考え「『にこにこ』教材を使用した日本語交流活動」を府内253名の日本語支援者に提案・普及することができ、教材も多数頒布を行った。また、当協会事業の指針となる「日本語交流活動宣言」を本事業を通じて作成することができたことは大きな成果である。今後はこの宣言を柱として事業展開を進め、より豊かな多文化共生社会の実現に向けて地域に発信していく所存である。
外国人人材の社会参加促進については、4カ月の教室活動では明確な成果を証明することはできないが、だれかの役に立ちたいと志願する外国人が多数いたことはうれしい発見であった。教室活動を継続的に実施し、また、課外活動として地域の人たちと交流できる機会を設けることでさらに自信をつけて活躍の場を広げていくのではないかと期待できる。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

本事業ではカリキュラム案を活用して作成された教材「にこにこ」「はじめてのにこにこ」「生活の漢字」を使用して教室活動を実施した。当協会ですべて活用した「生活の漢字」は、実際の生活に即したテーマであり、「今日で学んだことが今日の生活に役立つ」を実感できる内容であった。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

「にこにこ出前講座」を通して、吹田市日本語教室ネットワーク連絡会(8団体)に所属する団体の支援者が集まり、教室間の交流につながった。団体代表者は年2回の連絡会で情報共有をしているが、それ以外の支援者は他の教室と交流をもつ機会ほとんどないので、いろいろな教室の異なる活動や運営の方法を知ることによって新たな気づきが生まれた。ゆるやかなつながりを持つことは各教室が抱える課題解決の糸口や閉塞感の緩和にもつながるので今後も継続して交流の機会を提供したい。一方、日本語教室以外の団体等との連携は前進しておらず、より一層の地域連携を図ることが今後の課題である。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

ホームページ、Facebook、協会会報、市報、チラシ配架といった従来の周知方法に加え、今回はQRコードを読み取ってWEB申込みができるようにした。特に外国人はWEBからの申込みが多く、毎週教室に通って顔を合わせている人もWEBで申し込むケースがあった。外国人にとっては必要事項を入力するだけのWEB申込みは気軽にアクセスできる方法であることが見て取れた。
事業成果の発信については、「日本語交流活動宣言」をホームページやFacebookで発信するほか、吹田市日本語教室ネットワーク連絡会や国際交流ネットワークおおさか等の参画団体に発信していく予定である。また、地域住民への周知も積極的に行い、日本語教育への理解を深めるよう努める。

(6) 改善点、今後の課題について

増加する日本語学習者、多様化するニーズに対応すべく、さまざまな形態の教室を実施してきた。数的なニーズはある程度満たしていると考え。今後はそれぞれの活動を質を上げ、地域に根ざした活動へと深めていくことに注力したい。これまでは限定された人が参加する教室内の活動のみであったが、地域住民との交流を促進し、外国人への日本語教育の重要性や彼らの課題に関心を持ち、相互理解を深めるために積極的に地域に向かい必要であると認識している。
運営委員会の中で当協会の事業指針となる「日本語交流活動宣言」を策定し、当協会中期計画の重要項目の一つとして掲げることとなった。次年度以降、同宣言の実質的な普及・定着に取り組む。そのために、まずは協会スタッフの育成に努める。スタッフ自身が趣旨や意義を理解し、次に支援者も共通認識を持って日々の活動に取り組めるよう理解を広め、そしてその輪が地域に広がることを目指す。また、同宣言を外国人にも届けるために多言語翻訳を行う。

(7) その他参考資料

- ・外国人のための生活の漢字 支援者養成講座受講者募集
- ・外国人のための生活の漢字 学習者募集
- ・日本語わいわい 支援者養成講座受講者募集
- ・日本語わいわい 学習者募集
- ・日本語交流活動教材「にこにこ」出前講座